

担当者: 新島 秀人 (日本アイ・ビー・エム)

AREA	P2P
内容 状況	<p>総括会議には30名程度が参加、コアメンバー(発言者)は10名程度 Desktop PCや小型機器を用いたGrid構築に焦点を置き、これまでのグリッド環境とP2Pグリッドとの協業・協調関係を築く方策を議論する。</p> <p>今年4月にP2PWGがGGFに参加しその頃から活動が活発になった。現在のところRGとBOFのみであるが、今後の発展が期待されるエリアである。</p>
終了 Group	無し
新設 Group	<p>Embedded Grid (e-Grid): “Harness the computing power of embedded system” Ex. Intelligent home, video/audio capability 提案されたが余り賛意は得られなかった。無くなる可能性大?</p>
今後	<p>RGでは特定アプリケーションを想定し、ケーススタディーなどを通してより具体的な議論を行う方針。また、一般的な問題点としてセキュリティーやコラボレーションといった技術に焦点が当てられている。</p>
所感	<p>ビジネスでP2P環境を使うにはセキュリティーをどのように確保するのが大きな課題となっている。P2P環境でのセキュリティーフレームワークの構築が急務である。</p>

AREA名：P2P

グループ名		内容
W G	(NONE)	
R G	OGSA/Globus & P2P Relationship	P2Pの立場からOGSAを評価する。 特にはセキュリティ、コネクティビティ、インタラクティビティの観点から、従来型のサーバーグリッドとP2Pとの違いを分析、比較を行う。
	Appliance Aggregation Arc.	クライアント機器を認知特定し、それをグリッド資源として使用するためのアーキテクチャを構築する。
B O F	Desktop and Appliances	チャーター決定とグループ体制をどうするかに関して現在作業中。 (OGSAを中心とし、mini-GGFのような物は推奨しない)
	Grid computing with Desktop & Consumer devices	P2Pアプリケーションを実現する上で必要になるアプリケーションレベルインタフェースを共通化することを目指す。

担当者： 鈴木 豊太郎(東工大/学振)

グループ	OGSA/Globus and Peer to Peer Relationship Research Group
目的	OGSA などの仕様が固まる中、P2P のコミュニティではこれらのプロトコルを用いてどのように P2P のアプリケーションを構築するのを知る必要がある。しかし、OGSA などはサーバグリッドを主体としたアーキテクチャとなっており、P2P などのセキュリティ、コネクティビティ、インタラクティビティが異なる環境において OGSA のモデルが適用可能かどうかは定かではない。この RG ではセキュリティ、コネクティビティ、インタラクティビティに関して、サーバグリッドと P2P との違いを分析、比較を行う。
進捗	<ul style="list-style-type: none">•グループの設立に伴って、各メンバーの紹介を行った•メーリングリストや、調査する分野(セキュリティ、コネクティビティ、インタラクティビティ)の役割分担を行った
今後	GGF 6: チャーターの説明とレビュー GGF 7: “Grid Services in Peer-To-Peer Environments” というドキュメントを用意し、P2P 環境でグリッドサービスを実現するための必要事項をまとめるあげる。この必要事項を他の WG にフィードバックする GGF 8: レポートの完成
参加者数	約30人
所感	<ul style="list-style-type: none">•第一回目のミーティングということもあり、顔合わせ程度のものだった•エントロピアの Andrew Chien なども参加していた。

担当者： 首藤 一幸 (産総研)

グループ	APPAGG-RG: Appliance Aggregation Architecture Research Group
目的	クライアント側資源: appliance のグリッドへの組み込み方を考える。 3つの側面から: resource aggregation (discovery, identity, security, communication,...)、personal use (trust, human computer interfaces, applications, disconnection,...)、embedded deployment (scalability power, ambient intelligence fault resilience,...)
状況	GGF5でBOFが開かれ、RGとして認められた。今回が最初のミーティング。
進捗	<ul style="list-style-type: none"> • チェアIntel社Milan Milenkovicが、appliance aggregationとGridの関係について発表した。 • このグループが取り組む問題空間や、グループのcharter、スケジュールについて、チェアHP社 Dejan Milojicicが案を提示。それについて議論した。質問はあったものの、特に異論はなかった。 • まずはTerminology、Survey、Use Casesをまとめる。取りまとめ担当を決めた。 • Q. aggregationが生きるシナリオは？ A. 例えば、PDA中のメモとPCが持つデータ、携帯電話器で録音した音声メモをaggregateして、報告書を作成する、といった場合。 • Q. なぜGGFで活動するのか？ A. 傘となる組織が欲しかった。いまどき個々の企業だけではstandardは作れない。by Dejan Milojicic (HP) • 参加者全員が自己紹介を兼ねて「なぜこのセッションに参加したのか？」を話した。
今後	Best practices (12ヶ月)、Staged architecture (12~36ヶ月)、Standards (36ヶ月)、Working prototypes (6~36ヶ月)
参加者数	26人 + チェア2人
所感	参加者は、バックグラウンドがHPCではない人ばかり。例: Entropia, United Devices, Samsung, Novell, ソニーコンピュータエンターテイメント(CTOの岡本さん)、ソニーのネットワーク&ソフトウェアテクノロジーセンター(村田さん)。村田さんは、家庭内サーバなどソニーの取り組みについて熱く語っていた。

担当者： 武本 充治 (NTTラボ)

グループ	BOF: Grid computing with Desktop & Consumer devices
目的	現在、存在している様々なP2Pアプリケーションが、独自のサービス/インフラの上に実装されている。資源管理や相互接続などの解決すべき問題は多いが、最初の段階として、アプリケーションレベルインタフェースの実現を目指す。
状況	今回が最初の会議である。ユーザシナリオ(Galaxy Formation計算をするユーザのためのシステム開発)をベースに、イメージを膨らませた。分担を決め、チャーターの作成を開始した。
進捗	分野は「P2P Device Distributed Computing」と呼ばれる部分である。システムのどこを標準化するかというイメージが明確になった。、Terminologyの定義、ユースケースの記述、要求条件記述、アーキテクチャオーバービューのそれぞれについての分担を決めた。
今後	分担をされたメンバを中心に、チャーターの作成を行う。メーリングリストにて全員で議論を行っていく。
参加者数	30名程度
所感	P2Pの分野としては既にビジネス展開が多いため、興味は惹いている。説明資料に、有名なJXTA (Sun Microsystems社)が出てこなかったなど、関連技術との関係が明確になっていない感がある。